

篠川事務所の”ホット”通信

2019年5月号

税理士・中小企業診断士 篠川徹太郎事務所

〒226-0003

神奈川県横浜市緑区鴨居 3-1-9-201

電話：045-530-3727 F A X：045-530-3728

<http://shinokawa-office.com>

mail@shinokawa-office.com



ホットな話題をほっとするような分かりやすさでお伝えする“ホット”通信・・・Vol. 57 をお届けします。

新天皇の即位と合わせたGWが終わりました。史上最長の10連休については賛否両論あるようですが、終わってみれば、あの連休が懐かしいまた休みたいと思っている人も多いのではないのでしょうか？

【サラリーマンが知って得する特定支出控除】

サラリーマンの方でも文具など仕事のために自己負担する費用がある場合、これを考慮して一定の金額を控除する制度があります。この制度を「給与所得控除」といい、その額は収入金額に応じて決められています。しかし、それ以上に費用の支出がある場合には「特定支出控除」を利用することができます。特定支出の範囲は「通勤に必要な費用」「転勤の際にかかる費用」「仕事に関する研修を受けるための費用」「仕事に必要な資格を取得するための費用」「単身赴任などの場合、自宅に帰るための費用」「仕事に関連する書籍や衣服、接待などのための勤務必要経費」となります。最後の勤務必要経費の限度額は65万円です。これらの合計金額が給与所得控除額の半分を超えるときは、確定申告による恩恵を受けることができます。例えば年収500万円の人の場合、給与所得控除額は154万円です。そして特定支出の合計金額が100万円だったとすると、100万円から154万円の2分の1である77万円を引いた23万円が特定支出控除額となります。なお、確定申告の際には特定支出に関する明細書や給与支払者の証明書などを添付する必要があります。貴重な時間を割いて仕事に必要な資格を取得するような人にとっては、それに費やす金額もかなりの負担となるため、この制度を有効に活用できるといいですね。



【これまでにない「生産性を向上させる」提案とは？】

アウトドア用品を仕事場に導入するキャンピングオフィスに注目です。フロアの一角に張ったテントの中やたき火セットを置いたスペースでのミーティングは、コミュニケーションの活性化に有効です。一人でパソコンに向かう業務もリラックスして集中できるとか。アウトドアブランドの「スノーピーク」は、キャンプ用品を活用した職場モデルを企業などに提案するBtoB事業を拡大中です。自然の要素を取り入れて生産性の向上を図る新たな働き方改革の登場です。



今月の教えてキーワード：【RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）】

オフィス業務の効率化や自動化に向けた取り組みのこと。工場のライン業務などで導入が進むITやロボットの活用領域をホワイトカラーにも広げ、機械学習や人工知能などの技術を備えたソフトウェアが業務を代行したり自動化したりする。手順が定められた事務処理や書類が多い金融業、人事部門の定型業務などが対象。日本の労働人口は減少局面にあり、労働力の維持や有効活用、働き方改革の観点でも注目を集めている。

【青き踏む春に遊ぶ】

ぬくぬくとした日だまり。心がとろけそうになるやわらかな風。あたりの緑は色濃くなり、いっせいに花が咲き始める。春は、四季のある国に暮らす喜びを全身で感じられる季節です。陰陽五行で春の色といえば「青」。これが「青春」の語源だとされています。俳句の世界では、春先の野原で青草を踏んで遊ぶことを「青き踏む」、または「踏青（とうせい）」といいます。もとは古代中国の行事に由来する言葉で、旧暦3月に青草がもえる中でうたげをする春の恒例行事だったそうです。ところで、春から夏に向かう頃になるとイソップ童話の『北風と太陽』を思い出すという知人がいます。旅人の外套（がいとう）を脱がせるために北風と太陽が勝負をするお話です。北風は思い切り寒い風を吹かせて旅人の外套を吹き飛ばそうとしますが、風が吹けば吹くほど旅人は外套の前をしっかりと押さえます。一方の太陽は、暖かな日差しを旅人に浴びせ続けました。するとそのうち旅人は暑くなり、自ら外套を脱ぎました。勝負は太陽の勝ちです。乱暴なやり方ではうまくいかない。優しい言葉をかけたり温かい態度を示したりすると、人は自分から行動する。一般的な教訓では、こうして北風が悪者になっています。ところが、実は2回勝負したという説もあるようです。まずは旅人の帽子を脱がせる勝負をしました。太陽が燦々（さんさん）と旅人を照らすと、あまりのまぶしさに旅人は帽子をしっかりとつかぶってしまいます。次に北風が力一杯に風を起こすと、旅人の帽子はいとも簡単に吹き飛んでいきました。勝負は北風の勝ちです。そこでもうひと勝負というわけで、外套を脱がせる2回戦が始まったのだとか。このストーリー教訓は「何事にも適切なやり方というものがあり、一方でうまくいっても他方でうまくいくとは限らない」というものです。押しでもダメなら引いてみる。商売の信念がコロコロ変わってはなりません。商売のやり方や考え方はひとつではないでしょう。煮詰まったときは昔の人にならって「青き踏む」を楽しみ、一度しか巡って来ないこの春を喜びと共に過ごしたいものですね。



ぬくぬくとした日だまり。心がとろけそうになるやわらかな風。あたりの緑は色濃くなり、いっせいに花が咲き始める。春は、四季のある国に暮らす喜びを全身で感じられる季節です。陰陽五行で春の色といえば「青」。これが「青春」の語源だとされています。俳句の世界では、春先の野原で青草を踏んで遊ぶことを「青き踏む」、または「踏青（とうせい）」といいます。もとは古代中国の行事に由来する言葉で、旧暦3月に青草がもえる中でうたげをする春の恒例行事だったそうです。ところで、春から夏に向かう頃になるとイソップ童話の『北風と太陽』を思い出すという知人がいます。旅人の外套（がいとう）を脱がせるために北風と太陽が勝負をするお話です。北風は思い切り寒い風を吹かせて旅人の外套を吹き飛ばそうとしますが、風が吹けば吹くほど旅人は外套の前をしっかりと押さえます。一方の太陽は、暖かな日差しを旅人に浴びせ続けました。するとそのうち旅人は暑くなり、自ら外套を脱ぎました。勝負は太陽の勝ちです。乱暴なやり方ではうまくいかない。優しい言葉をかけたり温かい態度を示したりすると、人は自分から行動する。一般的な教訓では、こうして北風が悪者になっています。ところが、実は2回勝負したという説もあるようです。まずは旅人の帽子を脱がせる勝負をしました。太陽が燦々（さんさん）と旅人を照らすと、あまりのまぶしさに旅人は帽子をしっかりとつかぶってしまいます。次に北風が力一杯に風を起こすと、旅人の帽子はいとも簡単に吹き飛んでいきました。勝負は北風の勝ちです。そこでもうひと勝負というわけで、外套を脱がせる2回戦が始まったのだとか。このストーリー教訓は「何事にも適切なやり方というものがあり、一方でうまくいっても他方でうまくいくとは限らない」というものです。押しでもダメなら引いてみる。商売の信念がコロコロ変わってはなりません。商売のやり方や考え方はひとつではないでしょう。煮詰まったときは昔の人にならって「青き踏む」を楽しみ、一度しか巡って来ないこの春を喜びと共に過ごしたいものですね。

仕事の報酬は仕事だ
それが一番うれしい

今を生きる！ 先人の言葉

ソニー創業者の一人である井深大の言葉。いい仕事をすれば、次に面白い仕事が無い込んでくる。さらにはいい仕事をしたら後は、もっと面白い仕事が無い込んでくる。

【エレンディア】

南米コロンビアのノーベル賞作家ガルシア・マルケスの短編集。80年代に上映された映画「エレンディア」の原作でもあります。日本とは全く異なる気候や歴史的背景の下で繰り広げられる寓話的世界は我々のイメージーションを刺激してくれます。

